

快適なライフスタイルを実現する家電製品のスマート化技術

Smart Technologies for Home Appliances toward Attainment of Comfortable Lifestyles

巻頭言

進化する家電製品の現状と今後

Current and Future Trends in Evolving Consumer Electronic Products

2015年は、東芝の家電製品にとって記念すべき年です。国産初の電気洗濯機と電気冷蔵庫を1930年に開発してから85周年を、また国産部品を使ったカラーテレビを1960年に世に出してから55周年を迎えます。過去には洗濯機と、冷蔵庫、テレビを合わせて三種の神器と呼んだ時代もありますが、これら家電製品の普及は当時のライフスタイルを大きく変革しました。

家事労働の軽減を主目的にする白物家電は、その後大きな進化を遂げます。洗濯機はドラム式が台頭し、冷蔵庫は省スペースかつ大容量を実現する新たな技術が取り入れられています。1931年には、真空掃除機を開発しましたが、現在では自走式のロボットクリーナを製品化しています。以前の白物家電に比べて主目的は変わらないものの、より快適な生活空間を演出する新たなアイデアを実現しています。

白物家電に対して、エンターテインメントを主目的としたテレビなどは黒物家電とも呼ばれ、液晶パネルやデジタル放送の普及により、以前とはデザインや機能が大きく変わりました。更に、2020年の東京オリンピック・パラリンピックを控え、4K (3,840×2,160画素) や8K (7,680×4,320画素) などの超高精細化だけでなく、ネットワークコンテンツの視聴など新たな楽しみ方が増加しています。視聴可能なコンテンツの増加とともにスマート化が進み、当社もコンテンツに簡単にアクセスできる技術を開発しています。

このように家電製品の進歩はライフスタイルを変革していますが、更に革新的な変化がもたらされようとしています。IoT (Internet of Things) の急速な展開です。これまでIT (情報技術) 機器が接続されていたネットワークの枠を超えて、様々な家電製品がネットワークに接続される素地ができてきました。家電製品からセンサで取得したデータを分析し、顧客に価値あるサービスを提供できます。更にクラウドサービスと併せて、新たなサービスの展開が可能になると考えています。

この特集では、長い歴史を持つ家電製品をネットワーク機能の搭載によりスマート化させ、快適なライフスタイルを実現する当社の取組みを紹介します。進化した家電製品がまた一つ殻を破り、“モノ”の提供にとどまらず、モノから実現される“こと”を顧客の真の価値と捉えて“モノ+こと”を実現していくという、当社が目指す姿の一端を理解していただければ幸いです。

安木 成次郎
YASUKI Seijiro